

木本議員 皆様、おはようございます。5番木本です。通告どおり2点質問させていただきます。牟岐町の人口減少対策や若者の定住促進を目的に結婚祝金や住宅建築資金借入利子補助金、定住促進補助金といった支援制度の実施について伺います。これらの制度は町内で新生活を始めやすくするための助けとなり、特に若者層や移住希望者にとって牟岐町の魅力を高める施策と考えられます。現在、他の自治体では、こうした支援制度が定住促進や地域活性化に一定の成長を上げている例もあります。牟岐町においても、これらの制度を導入することで若者や移住者の定住を促進し、地域の活性を維持・向上させる効果が期待できるのではないのでしょうか。そこで以下について伺います。①町として結婚祝金や定住促進補助金などの支援制度を検討している計画はありますか。②他の自治体の支援制度を参考にした場合、牟岐町での導入可能性と課題は何でしょうか。続きまして、「二十歳の集い」は若者にとって人生の重要な節目となる行事です。この特別な機会に牟岐町にゆかりのある作家の作品を記念品として、贈ることで地域の魅力や文化を次世代に伝えることができると考えます。例えば、牟岐町出身の木本正二氏の著書「黒潮の碑文」は、郷土に深く根差した歴史や自然を感じられる作品です。「郷土ゆかりの記念図書」として、二十歳を迎える若者に贈ることで、牟岐町の誇りや魅力を改めて認識してもらいきっかけとなり、将来にわたる郷土愛やつながりを深めることが期待されます。そこで以下について伺います。①「二十歳の集い」において、本を記念品として贈ることについて、町としてどのように考えますか。また、木本正二氏の著作など町ゆかりの作品を記念品として活用する可能性はありますか。②この取り組みが町の文化振興や若者の地域愛の醸成にどのような影響を与えると考えるか、町の見解を伺います。以上、2点について本町の現状や今後の方針をお聞かせください。お願いします。

喜田議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 皆さん、おはようございます。木本議員ご質問の、本町において結婚祝金など、定住促進補助金の今後の予定は。にお答えします。結婚祝金につきましては、実施しているのは県内で美波町のみで、祝い金が出るからと結婚が増えるとは考えにくく、現在本町では実施予定はありません。また、居住することを目的に既存の家屋を借り受

け、または購入して行う増改築工事に対して支給する定住促進補助金につきましては、範囲が多岐にわたっており、住宅取得・住宅リフォーム・木造住宅耐震化・移住者支援・家賃補助等々、様々な制度があり、国の有利な補助金を調べ、他の自治体の支援制度の効果や利用状況を調査し、効果がみられる支援施策があれば検討をしたいと思います。以上です。

喜田議長 今津教育長。

(今津教育長 登壇)

今津教育長 木本議員の二十歳を迎える若者に本を贈る取り組みについて、にお答えします。今日では、スマホやタブレット、そういうようなデジタルデバイスの普及により大人から子どもまで活字離れ・読書離れが進んでいます。電子書籍に親しんでいる人もいますが、議員ご指摘のように、「二十歳の集い」で本を贈ることは、牟岐町の若者に紙の本の良さを再確認してもらうきっかけとなるのではと考えます。本町では、子どもたちに読書の素晴らしさを知ってもらうために、牟岐町立図書館よりブックスタートとして、子どもが生まれて3か月後に最初の本を、そして小学校入学時にセカンドブック、中学校入学時にサードブックとして、夏休みの課題図書をプレゼントしています。二十歳を迎える若者に本を贈るとなればフォースブックとして、思い出に残る記念の本となることでしょう。若い人たちに地域の文化や歴史への関心を高め、郷土への誇りを持っていただくために、「郷土ゆかりの記念図書」として、牟岐町にゆかりある作家や題材の作品を贈ることは意義のあることだと考えています。更にこの取り組みが読書習慣への促進、地域社会へ貢献への思いにつながっていくことを期待したいと思います。今現在、牟岐町の「二十歳の集い」では、牟岐町教育委員会より「印鑑」と当日の「集合写真」と「写真立て」を贈っています。その当日に本を贈るとなれば、どのような本を贈るのか、毎年全員一律でいいのか、それとも本人の希望によるものなのかなど、前もって決めておかなければならない問題もありますので、今後の課題として検討していきたいと思います。以上です。